

ベトナム日本商工会での活動

○ ベトナム日本商工会 理事/執行役員

(The Japan Business Association in Vietnam)



- ・ 理事 : '09年度 ~ '10年度、'12年度 ~ '16年度
- ・ 執行役員 : '12年度 ~ '16年度
- ・ 会長 : '10年度
- ・ 工業部会長 : '14年度
- ・ 人材育成委員長 : '12年度 ~ '16年度

※ ベトナム北部の日系企業商工会 – 加盟者数 670社(2017.03)

● ベトナム日本商工会 人材育成 担当

ベトナム日本商工会、労働など3省と人材育成で覚書=工業化戦略を後押し

【ハノイ時事】ベトナムの日本商工会議所と労働・傷病軍人・社会事業、教育・訓練、商工の3省は13日、ハノイで人材育成協力に関する覚書を結んだ。グエン・ティエン・ニャン副首相から直接要請があった試みで、ベトナム政府が外国の民間組織と人材育成で協力するのは初めて。



覚書に署名するベトナム日本商工会の佐藤元信会長(前列右から2番目)ら

2020年の工業国化を目指すベトナムは、日本の協力で工業化戦略を策定し、グエン・タン・ズン首相が7月1日に承認。同26日には、日本の官民がベトナム政府と投資環境改善を話し合う「日越共同イニシアチブ」の第5フェーズがスタートし、日本は最大の政府開発援助(ODA)と外国直接投資(FDI)の供与・実施国として、ベトナムの経済政策に深く関わっている。

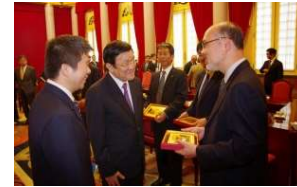
この日締結した覚書は、工業化戦略とイニシアチブの両輪を人材育成面で後押しするのが狙い。実施期間は第5フェーズと同じ時期に設定し、イニシアチブのワーキングチーム「人材・労働」で(1)学校教育(2)日系企業への就職(3)労働者のスキルアップ(4)マネジメント教育について具体策を練る。

覚書の締結式でニャン副首相は「優秀な人材を求める日本企業の正当なニーズに応えたい。日本企業の成功はベトナムの成功であり、これは人材育成におけるベトナムの官民連携(PPP)プロジェクトだ」と指摘。

商工会の佐藤元信会長は「今後は東南アジア諸国連合(ASEAN)の市場統合や環太平洋連携協定(TPP)で競争が一段と激化する。覚書を実現すれば、勝ち残るのはベトナムと日本になる」と強調した。

※ ニャン副首相からの要請による
ベトナム人材育成に対するベトナム日本商工会協力の覚書調印

※ [ベトナム日本商工会\(現 ベトナム日本商工会議所\) Webサイト](#)
[在越日本国大使館 Webサイト](#) [日越共同イニシアティブ](#)



○ 日越共同イニシアティブ

(ベトナムの外資投資環境改善のための日越政府間協議)

第4フェーズ、第5フェーズ 人材・労働 チームリーダー 担当

日越共同イニシアチブ、第5フェーズ開始 投資環境改善へ工業化戦略と連携へ

【ハノイ時事】ベトナムの投資環境改善に取り組む「日越共同イニシアチブ」第5フェーズのキックオフ会合が26日、ハノイの計画投資省で開かれた。「法制度運用」「税制」などワーキングチーム(WT)が13、評価項目が100(積み残しを含め最大106)と、第4フェーズのそれぞれ9、70から大幅に増加し、未解決に加え新たな課題の登場で日本側の要望が一段と細分化してきた。



日越共同イニシアチブのキックオフ会合。左が日本側

イニシアチブは2003年にスタートした日越交渉の枠組みで、第1-4フェーズでは、短期滞在ビザの免除、内外企業の最低賃金統一などの成果を上げ、日本企業の対越投資を後押ししてきた。第5では特に「業種横断的課題の根本に迫る」(日本大使館)として、「法制度・運用(WT1)」問題への取り組みを強化する。

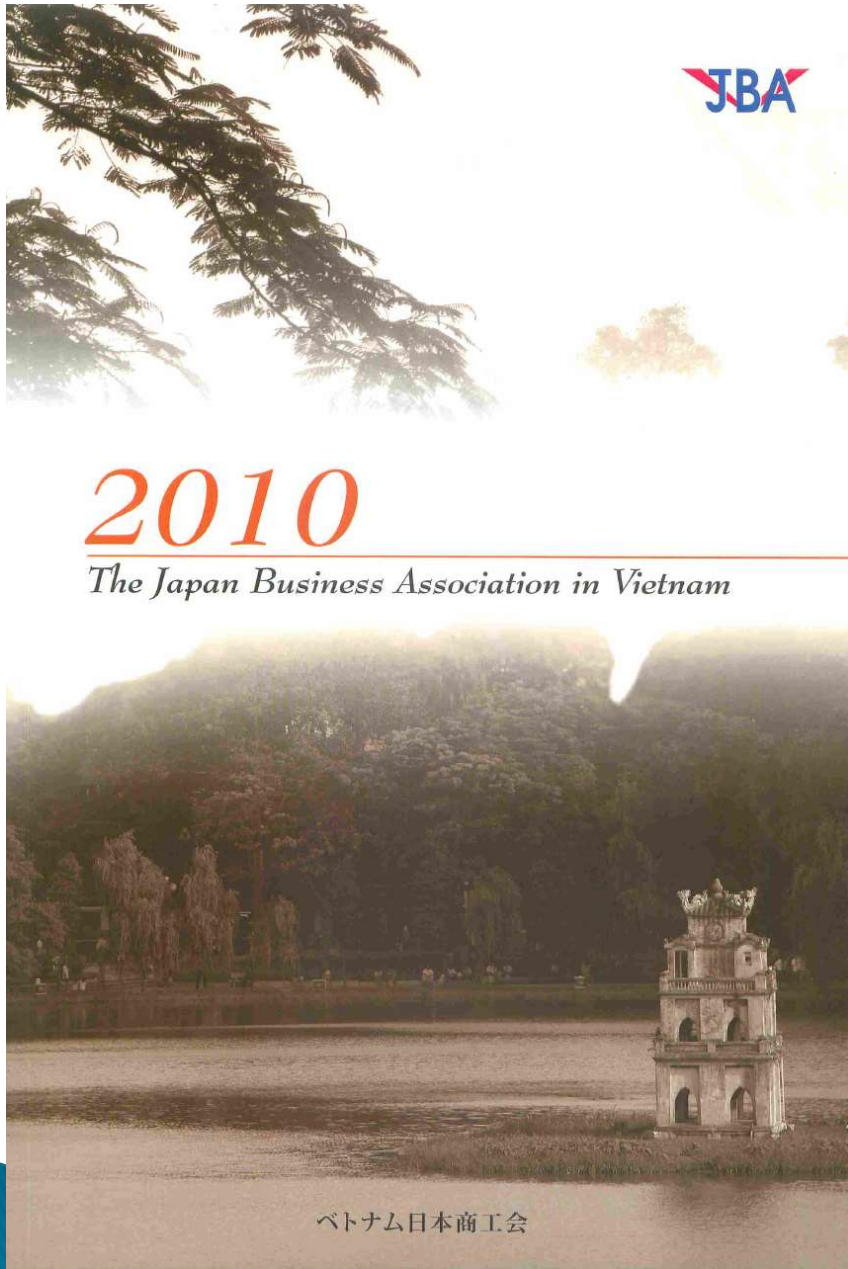
また、7月1日にグエン・タン・ズン首相が承認した「工業化戦略」との相乗効果を狙う「工業化戦略連携(WT12)」や、新規投資を呼び込むための「ノンバンク(WT8)」「サービス産業(WT9)」などが新たにWTに加わった。

イニシアチブの共同議長を務める谷崎泰明駐越大使は「工業化戦略の首相承認で、裾野産業の上に位置する山が見えてきた。第5フェーズではノンバンクなど新たな取り組みもあり、今後も協力していきたい」と強調。越側共同議長のブイ・クワン・ビン計画投資相は「日本企業の強みを活用し、ベトナムの政策や制度の問題点を改善していきたい」と述べた。第5フェーズは14年12月に最終評価を行う予定。

◇日越共同イニシアチブのワーキングチーム一覧

ワーキングチーム	チームリーダー	会社名
WT 1: 法制度・運用	白石 章人	第二タロン工業団地
WT 2: 税制	谷中 謙久	K PMC
WT 3: 運輸・通関	藤部 雅巳	郵船ロジスティクスベトナム
WT 4: 人材・労働	小林 裕一	ペンタックスリコーイメー징プロダクツ(ベトナム)
WT 5: 知的財産	五十嵐 雅行	ホンダベトナム
WT 6: 環境	杉原 直樹	パナソニックベトナム
WT 7: 小売り・流通	西崎 泰明	イオンベトナム
WT 7: 不動産	遠藤 新一	東神開発
WT 8: ノンバンク	田中 秀夫	AUSトレーディングベトナム
WT 9: サービス産業	安藤 至隆	日本貿易振興機構(ジェトロ)ホーチミン事務所
WT 10: 食品	谷口 博史	双日ベトナム
WT 11: インフラ	大東 通郎	在ベトナム日本国大使館
WT 12: 工業化戦略連携	市川 匡四郎	市川ビジネスコンサルティング
WT 13: マクロ経済	大東 通郎	在ベトナム日本国大使館

(ベトナム日本商工会提供)



2010

The Japan Business Association in Vietnam

ベトナム日本商工会

会長からのメッセージ

2008年度後半からのリーマンショックの影響で、2009年度前半は多くの会員企業が生産縮小、人員削減など大変厳しい経営を強いられる中、各企業の大変な経営努力により、2009年度後半には、多くの会員企業がかなり経営が回復してきたのではないかと思います。そのような厳しい状況の中にもかかわらず、会員企業数は、20社増えて2010年4月には377社になり、商工会規模も着実に拡大しております。明けて本年2010年度ですが、経営環境的には、欧米市場の経済環境が立ち直らない中、まだまだ予断を許さない厳しい状況にあり、商工会として、より一層、会員企業の経営インフラ改善に向けて支援していく必要があること、また本年はタンロン・ハノイ建都1000周年の節目にあたり、日本・ベトナム親善、文化交流を進める絶好の機会となる年であること、更に日本からの投資、企業数の増加とともに日本人とその家族の数が増えるに伴い、生活環境改善向上を進めていくことが重要ではないかと考えております。従いまして、商工会として本年度は下記の点を重点的に推進いたしたく考えております。

- ①商工会に加盟いただく会員企業のビジネス投資環境改善を支援するために、日越共同イニシアティブの行動計画の着実な推進と実行。
- ②タンロン・ハノイ建都1000周年の節目にあわせての日本・ベトナムの親善、文化交流の推進と各委員会組織での経済面の交流と連携推進。
- ③本人並びに帯同されるご家族の増加に伴い、日本人学校の環境整備への支援と、鳥インフルエンザなどの疾病の世界的大流行のリスクが依然消えない中、健康管理維持のための有為な情報の提供を、日本大使館との連携で推進。

本年度も皆様からのご支援、ご協力を何卒よろしくお願い致します。



ベトナム日本商工会 会長 小林 裕一

商工会の歩み

1992年	12月	在越日本大使館の協力を得て「ハノイ日本商工会」発足(会員数26社)
1996年	4月	ハノイ交通通信大学内に「ハノイ日本人学校」開校(生徒数13名、教師数5名)
1996年	4月	商工会会報「ホアンキエム」第1号発行(会員数92社)
1997年	7月	「ハノイ日本ビジネスクラブ」に名称変更(会員数120社)
1997年	7月	ベトナム政府機関との投資促進に関するラウンドテーブル開催
1998年	通年	日越外交関係樹立25周年記念イベント参加
1998年	4月	商工会支援団体として「ハノイ日本婦人会」発足
1998年	9月	ベトナム政府より「ベトナム日本商工会」として正式に認可
1999年	9月	第1回貿易・投資環境改善に関する日越ワーキンググループ参加
2000年	11月	第2回貿易・投資環境改善に関する日越ワーキンググループ参加
2001年	11月	経団連とタイアップして奨学金制度設立(会員数122社)
2002年		日越投資イニシアティブ協力
2003年	通年	日越外交関係樹立30周年記念イベント参加
2003年	7月	第1回ベトナム人小学生による工場見学会(現在も継続中)
2004年	8月	会員数150社を超える(152社)
2004年	11月	日越投資協定公文交換式立会
2004年	11月	日越共同イニシアティブ評価促進委員会
2005年	11月	東遊運動100周年記念事業
2006年	5月	会員数200社を超える(204社)
2007年	11月	日越共同イニシアティブ第2フェーズ評価促進委員会
2008年	通年	日越外交関係樹立35周年記念イベント参加
2008年	6月	会員数300社を超える(301社)
2008年	11月	日越共同イニシアティブ第3フェーズ合同会議
2009年	6月	会員数350社を超える(357社)
2010年	12月	日越共同イニシアティブ第3フェーズ評価促進委員会
2011年	1月1日	会員数399社

Hoàn Kiếm



No.47
Dec 2010

会長挨拶



小林 裕一
ペンタックスVN

タンロン1000年祭のメインの行事が10月初めに、ASEAN首脳会議が10月末に開催され、そして、現在は12月初めの日越共同イニシアティブ第3フェーズの最終合同促進評価会議に向けた取り組みが最終段階を迎えています。

特に日越共同イニシアティブは、“ベトナムの競争力強化のための投資環境改善を目指す”とされ、“投資環境改善はベトナムの開発に携わる全て関係者の利益となるだけでなくベトナムが最大の受益者であり、この結果取りまとめられた行動計画は、日本のみならず、他国及び地域の投資家にも利益を与える”とされています。他国ではあまり例のない、両国の官民がそれぞれの役割を果たしつつ一体となって投資環境改善の細部までに及んだ取組が行われ、両国関係の発展に大きな意義をもたらす活動であります。現在の第3フェーズは、2008年度から2年間で推進され、いよいよ12月初めに最終合同促進評価会議を迎えることになります。

今それに向けて谷崎大使のご指導の下、担当書記官とともに担当委員長と各WTの皆様による精力的な取り組みが続けられています。第3フェーズでの皆様のご尽力の成果が、会員企業の事業環境の改善に実質的な影響をもたらすこと、そして第4フェーズで更なる深い議論が推進されていくことを強く願うものであります。

また、11月7日には恒例のハノイ日本祭りが開催されました。本年度は従来と変え「スポーツ文化委員会」が中心となり準備・運営を担当していただきました。当日は好天にも恵ま

れ、2,600名もの皆様に参加いただき盛況のうちに終えることができました。200名近い委員および会員企業からのボランティアの皆様のご活躍の賜物と感謝致しております。もうひとつ、本年度はJBAV事務局に専任事務局長を迎えた最初の年度になります。会員企業が着実に増加するなか商工会業務が多種、多様なものとなり専任事務局長採用の必要性が高まっております。会員企業の皆様のご支援とご協力のもと、前年度執行部の皆様のご尽力により専任事務局長を採用し、阿部前会長により新たな事務局体制の構築が進められてきました。現在、事務局長の他事務局員2名の体制で、事務局業務のサービスレベルの更なる向上を目指し改善を推進しているところであります。

現在、会員企業数399社となり、400社に迫るべく毎月のように新規加入企業をお迎えしております。商工会が当地でビジネスを行う会員企業の発展、当地で生活されるご家族の皆様生活向上に寄与しますよう努めて参りたいと思

います。最後になりましたが、会員企業関係者およびご家族の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げますと共に今後も商工会へのご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。特にこれから日本の年末年始とベトナムの年末年始が順次訪れ慣れだすこと、そしてハノイの本格的な冬のシーズンを迎えますので、皆様くれぐれも安全と健康にご留意下さい。

2010年11月

Hoàn Kiếm



No.48
Mar 2011

会長挨拶



小林 裕一
ペンタックスVN

旧正月が過ぎ当地での新年がスタートしました。そして、商工会や多くの会員企業の皆様の事業年度は4月から始まるかと思っておりますので、当地では計3回の“新年”が順番に訪れることになろうかと思っております。新たな事業年度を本番とするならば、毎年この時期は1回目、2回目の新年を経ながら新事業年度の準備を順次深めていくように感じます。

さて、もう3月になり商工会の当事業年度も終盤にさしかかっております。ここで本年度を振り返ってみますと、まず、ベトナムに対してより注目が集まった年であったと言えるかと思っております。大きな出来事としては、①日越共同イニシアティブの第3フェーズから第4フェーズへの継続合意、②ハノイ・タンロン建都1000年祭、③ベトナムがASEANの議長国などが記憶に新しいところです。また、菅総理大臣が来越された際には、原子力発電所建設およびレアアースの開発の協力について合意がなされ、日越関係の更なる深化を感じた年でもありました。また、様々な方面から訪問された方々を商工会としてお迎えする機会が多くなりましたが、皆様のベトナムへの大きな期待を毎回強く感じたものでした。

商工会は、順調に新規会員企業様をお迎えしており、会員企業様の総数が本年度400社を超え、2月末現在では405社となりました。そして、当年度より商工会執行部の体制を新たなものとし、各部会から副会長を選出いただき6名体制となりました。商工会事務局は、専任事務局長が就任、事務局員も新メンバーとなり、うち1名は対外的なベトナム語でのコミュニケーションを強化すべく、ベトナム人を採用しました。事務局は更に会員企業様へのサービス向上を目指して改善に取り組んでおります。また、年度の途中で会長の交替があったことも異例なことでした。若輩の私が会長の重任を仰せつかり、今年度からの新体制があつてこそ、何とか年度末を迎えることが出来たと強く感じており、新体制の構築にご尽力された昨年度執行部の皆様ならびに阿部前会長、ご理解、ご支援をいただきました会員企業の皆様に大変感謝を致しております。

最後に、本年度商工会の活動に関係されました全ての皆様のご理解、ご支援、ご協力により感謝申し上げます。そして、会員企業の皆様の当地での事業の更なる発展のため、今後さらに商工会活動の果たすべき役割の幅や深さが増してくるものと思っておりますので、来年度も皆様の一層のご理解とお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。ご挨拶とさせていただきます。

2011年 3月

メニュー

- ▶ ホーム
- ▶ 商工会概要
- ▶ 商工部会
- ▶ ハイフォン支部
- ▶ 実行委員会
- ▶ 生活環境グループ
- ▶ JBAV活動 & CSR活動

▶ 年度ごと 活動報告

- ▶ 活動報告2017年度
- ▶ 活動報告2016年度
- ▶ 活動報告2015年度
- ▶ 活動報告2014年度
- ▶ 活動報告2013年度
- ▶ 活動報告2012年度
- ▶ 活動報告2011年度
- ▶ 活動報告2010年度
- ▶ 活動報告2009年度
- ▶ 活動報告2008年度
- ▶ 活動報告2007年度

▶ 会員企業のCSR活動報告

- ▶ 入会案内
- ▶ 各種届
- ▶ ホアンキエム（会報誌）
- ▶ リンク集
- ▶ サイトマップ

会員専用メニュー

- ▶ 理事会報告
- ▶ ベトナム政府等への要望書と回答
- ▶ ベトナムの法律等各種資料 new!!!
- ▶ 日越共同イニシアティブ
- ▶ ビジネス情報かわら版
- ▶ 会員名簿

2010年12月

国際間陸路輸送での24時間通関、知的財産権取り締まりなどで改善 投資環境整備のための日越共同イニシアティブ 第3フェーズを完了

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと 活動報告 > JBAV活動報告 2010 >

国際間陸路輸送での24時間通関、知的財産権取り締まりなどで改善 投資環境整備のための日越共同イニシアティブ 第3フェーズを完了

国際間陸路輸送での24時間通関、知的財産権取り締まりなどで改善 投資環境整備のための日越共同イニシアティブ 第3フェーズを完了

12月10日ハノイにて、「投資環境整備のための日越共同イニシアティブ」合同評価促進委員会が開催されました。

日越共同イニシアティブは2003年に両国首相の合意により始まり、現場を知る日本商工会の企業経営者が10のワーキングチームを担当し、両国政府がハイレベルでの合意とODAとの連携のもと取り組んでおります。第3フェーズでは、工業団地の住環境改善、食品安全、マクロ経済、税制、税関、知的財産、福祉産業、電力、道路港湾、通信、交通などをテーマに62の行動計画を策定し、ベトナム政府と共に取り組みます。今回はその評価会であり、「完全に実施」が○、「予定通り進捗」が△、「実施しているが遅れている」が△、「実施していない」が×となります。積極的な取り組みの結果、80%以上の項目で期待どおりの進捗がありました。大きな成果としては、国際間の陸路輸送の通関が24時間可能になったこと、知的財産権侵害に対する罰則が強化され、摘発のための制度改善が行われたこと、融資の貸上り規制が緩和されたこと、PPPスキームが導入され、パイロット・プロジェクトが進められたことなどが挙げられます。会議の席上で、小林裕一会長（ベトナムタックスVN）は、これら成果について述べるとともに、今後の第4フェーズに向けて、人材不足、電力不足、福祉産業育成など日越経済発展の課題事項での更なる取り組みの必要性に言及しました。小林会長は、その日のうちに3人の共同議長と共にグエン・シン・フン 副首相、チョン・タン・サン 中央共産党常務書記・政治局員を相次いで訪問し、今回の成果の報告を行いました。

これまでの関係各位のご協力に心よりお礼申し上げますと、今後始まる第4フェーズがこれまでの3フェーズ以上の成果を挙げられるよう、皆様のご協力を直しくお願い申し上げます。



日越友好列車

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと 活動報告 > JBAV活動報告 2013 > 日越友好列車

日越友好列車

15月8日、日越友好年事業の一環として『日越友好列車』の運行が始まりました。

サクラとハスの花に彩られた記念車両がベトナムの雄大な景色の中をハノイ・ホーチミン間で今年の9月まで運行されます。

この機会に『日越友好列車』で、ベトナム鉄道の旅はいかがでしょう。

詳細はこちらから

http://jvyear2013.jp.f.org.vn/friendship_railway.html



日越友好列車



ドン文通運輸副大臣



セミナーでのスピーチ



テープカット



小林社長と社員みんなで記念撮影

日越友好列車又は「南北統一鉄道」を被写体とした

「写真コンテスト」を開催します！

コンテストの詳細はこちら↓

http://jvyear2013.jp.f.org.vn/vn/contest_popup.html

2013年 5月



CUỘC THI ẢNH
QUÂN TÀI HỮU NGHỊ
NHẬT VIỆT
ĐANG CHỜ ĐÓN BẠN!

Ngày 15/08 hàng năm là Ngày Quốc tế Hữu nghị Việt - Nhật. Trong dịp kỷ niệm này, chúng tôi trân trọng mời các bạn tham gia cuộc thi ảnh Quân tài Hữu nghị Việt - Nhật. Đây là một cơ hội để bạn thể hiện tài năng và lòng yêu nước của mình.

Thời hạn nhận ảnh từ 15/08 đến 15/09/2013

GIẢI THƯỞNG CÓ GIÁ TRỊ:

- Giải Nhất (1 người)
- Một chiếc PENTAX S1 PRIME 6.3 Lens Kit
- Giải Nhì (1 người)
- Một chiếc PENTAX S1 PRIME 6.3 Lens Zoom Kit
- Giải Ba (1 người)
- Một chiếc PENTAX S1 PRIME 6.3 Lens Kit (Zoom Lens Kit)
- Giải Khuyến khích (1 người)
- Một chiếc đồng hồ đeo tay của Casio

Công ty Photos đang tuyển thêm các thành viên mới.

Để biết thêm chi tiết xin gọi số hotline hoặc truy cập website <http://jvyear2013.jp.f.org.vn/>



第23回ベトナム小中学生工場見学会

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと活動報告 > JBAV活動報告 2013 > 第23回ベトナム小中学生工場見学会

第23回ベトナム小中学生工場見学会 2013年 6月

第23回ベトナム小中学生工場見学会は、日越友好年の第2回ジャパンデイズの行事を兼ねてペンタックスリコーイメージングプロダクツベトナムにて6月1日（月）に、至近にあるタックバン中学校から中学1年生44名を招いて行われました。

ペンタックスは、ハノイで工場を操業して以来約17年間一眼レフカメラ用交換レンズおよびCCTVレンズを生産しており、個々のレンズ研磨加工から交換レンズやCCTVレンズ製品としての完成品組立まで行う工場です。ここから世界中へ製品を出荷しています。タックバン中学の卒業生も多く勤務しており、現在はペンタックスの従業員の子息や親戚もタックバン中学校に少なからず在籍しています。

当日は、社長の歓迎のあいさつ、副社長から会社と工程の説明、そして5つの班に分かれて工場見学をし、各工程の従業員から加工品のサンプルを見せられたり、工程の説明を聞いたりしました。

レンズが材料から順々に加工・研磨されてレンズとなり、それが最終的に交換レンズとして完成していくのを皆目を輝かせて真剣に見ていたのが印象的でした。

その後、社員食堂へ移動し、交換レンズの完成品を実際にカメラに付けて、いろいろなカメラや、いろいろな交換レンズの使用体験をしました。小さなミラーレス一眼のレンズを交換してみてもその小ささに驚き、超望遠レンズを覗き歓声を上げたり、友達同士写真を撮りあったり、生徒も大人も微笑ましく楽しい時間を過ごしました。

そして最後に代表の生徒が皆の前でお礼の言葉を述べ散会となりました。その後、翌週の6月3日（月）にはもう皆の感想文が届けられ、その内容にペンタックスの社員達も感激しました。今後毎年恒例行事として実施し、生徒の皆さんに地域で生産される製品についてもっと知ってもらいたいこと、また地域で生産される製品が世界へ出荷されていることを誇りにしてもらうことができれば幸いです。

今回はこのように弊社で見学会を開催でき、たくさんの生徒の皆さんに弊社を見ていただく機会を得られたこと、JBAVの関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



ベトナム小中学生工場見学会

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと活動報告 > JBAV活動報告 2013 > ベトナム小中学生工場見学会（リコーイメージングプロダクツ）

2013年 6月

広報委員会・活動報告

イベント名	6月1日ベトナム小中学生工場見学会
部会・委員会名	広報委員会
日時	6月1日（土）14:30-16:00
会場	リコーイメージングプロダクツ（ベトナム）
目的	<ul style="list-style-type: none"> * 商工会のCSR活動として、ベトナム人の子供たちに普段見ることのない日系企業工場内部を見学してもらい、その企業の製品のファンづくりとともに、「働く」ということを考えるきっかけにしよう。 * 会員企業と近隣小学校との関係構築の一助。 * 会員企業従業員の企業に対するロイヤリティ向上。
概要	<ul style="list-style-type: none"> * ハノイ市ザーラムにあるペンタックス様にご協力いただき、近隣の中学校1年生（日本でいう小学校6年生）の男女生徒約40人が見学を行いました。 * 始めに小林社長の挨拶の後、企業や生産の概要のプレゼンテーションがありました。 * その後、各班に分かれて、生産工程の上流から下流に向けて、見学を行いました。生徒たちは、非常に興味深そうに生産の現場を見学して回りました。 * 見学を終えて元の部屋に戻ると、お菓子と飲み物が用意されており、子供たちは大興奮。 * ペンタックス様の製品である一眼レフカメラ多数をレンタル用に出していただきました。子供たちは目を輝かせながら、記念撮影に熱中しておりました。 * 最後に、生徒代表よりお礼の挨拶があり、子供たちは学校へ行くバスに乗り込みました。関係者一同で手を振って、子供たちを送り出しました。 * この場をお借りして、今回大きなご協力をいただきました、ペンタックスリコーイメージングプロダクツ（ベトナム）様、小林社長様に改めてお礼を申し上げます。
報告者	千葉 尚道（ロジテムベトナムNo.2）

写真、添付資料



2月8日（土）サン国家主席への要望事項の申し入れ

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと活動報告 > JBAV活動報告 2014 >

2月8日（土）サン国家主席への要望事項の申し入れ

サン国家主席への要望事項の申し入れ



2014年2月8日（土）、ベトナム日本商工会佐藤元信会長が国家主席府を訪問し、チュオンタンサン国家主席と面会しました。

今回の訪問に先立ち、1月に深田博史駐ベトナム特命全権大使閣下がサン国家主席に面会し、「日本企業が現在抱える諸問題のうち、2～3の問題について早急な改善をお願いしたい。」と依頼したところ、サン国家主席は「企業から直接意見を聞く機会を作る。」と応じ、今回の面会が実現しました。

今回の訪問には、深田大使閣下、他大使館関係者、JBAV佐藤会長、JBAH山口会長、他担当役員が出席し、商工会の会員企業が抱える様々な問題についてサン国家主席に直接訴えました。

日本側からは、①税制・税務執行（税制優遇政策等）について、②自動車産業の振興について、③日本人学校（ハノイ・ホーチミン）の土地問題について、④労働問題（労働許可証・労働時間規制等）について、3月の国家主席訪日までに結果を出して欲しいと申し入れました。会談は予定を超えて2時間に及び、ベトナム側各省大臣、副大臣との意見交換が非常に熱心に行われました。

サン国家主席は日本側の要望に対し、「日本企業によるベトナム投資を高く評価し、今後も日本からの投資に期待している。今日聞いた問題点の一刻も早い解決について、関連省庁に指導する。」と返答されました。

この会談の後、各問題について、ベトナム側担当部署との個別の会談の機会が設定され、問題解決に向けて具体的な協議が始まっています。

2014年 2月

7月15日（火）日越共同イニシアティブ・第5フェーズ中間評価会合

ホーム > JBAV活動 & CSR活動 > 年度ごと活動報告 > JBAV活動報告 2014 >

7月15日（火）日越共同イニシアティブ・第5フェーズ中間評価会合

日越共同イニシアティブ・第5フェーズ中間評価会合（7月15日）

日越両国の官民代表者によって構成される日越共同イニシアティブは、7月15日、第5フェーズの中間評価会合を開催しました。

JBAVからは川田副会長、ならびに税制や人材育成といった、課題ごとのWT(=WorkingTeam)のリーダーが出席し、ベトナム側参加者との間で、各課題ごとに、これまでの進捗状況についての評価を確認しました。

なお、第5フェーズの最終評価会合は、本年12月5日に開催予定となります。

(詳細資料は会員専用メニューにてご覧ください。)



2014年 7月

2014年 8月

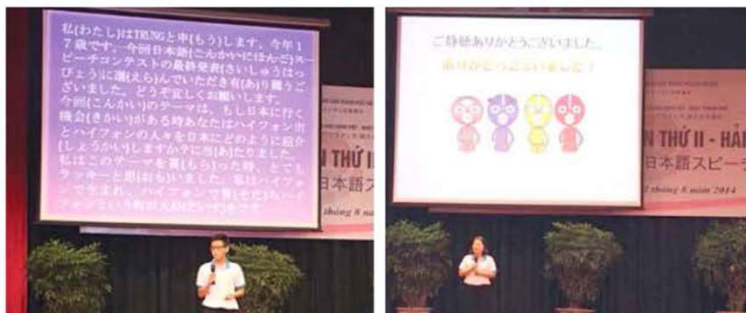
8月2日（土）ハイフォン市第2回日本語スピーチコンテスト

8月2日(土)、ハイフォン市内の国際会議場に於いて、第2回日本語スピーチコンテストが開催されました。ハイフォン市人民委員会が主催で昨年の日越40周年を契機に第1回が開催され、非常に好評であった事から、本年もさらなる発展を目指して第2回目が計画、実施されました。ベトナム日本商工会も、工業上記スピーチ大会の最終選考に残った発表者達には、コンテスト前の7月26日に日系企業の見学会が用意され、コココ・ベトナムの平松社部会ハイフォン支部として共催し、実行部隊のハイフォン市人民委員会外務局と打ち合わせを重ねながら、準備にあたってきました。

当日は、午前8時開場NCネットワークベトナムの皆様による司会で、午前8時半に開始となりました。事前選考を勝ち抜いた6名の発表者によるスピーチと、よさこい踊りや、日本の歌など、日本文化にちなんだ、盛り沢山のパフォーマンスが繰りひろげられました。観客も300名近くの来場があり、来賓、審査員、出場者、運営員等、総勢500名近い方々に参加いただきました。

発表の内容も、日本とベトナムの友好関係にちなんだ内容、ハイフォン市の紹介など、工夫が感じられました。私も、事前原稿審査の段階から携わりましたが、いずれも力作で、もっと多くの人に、もっと多くの内容で発表してもらいたいと思いました。ベトナム日本商工会の小林工業部会長殿より、6名全員に賞金と賞品が手渡され、出場者はとても喜んでいました。ベトナム日本文化交流センターの稲見所長様の講評の中にもありましたが、昨年よりレベルが上がっているとのこと、来年以降も人々に楽しみを感じました。来年、自分も参加してみようと思う方にも思っただけならば、とても嬉しいことです。さらに、大会後には、発表者の皆さんと、実行委員会の皆さんで、交流の場を持つことができました。皆さん一緒になって、どのように日本語を勉強しているかなど、様々な話題について、日本語で大いに語ることができました。発表者の皆様にとっては、充実した一日ではなかったかと思えます。

ご来場の皆様からは、アンケートにて様々な意見をいただきました。多くの方には概ね好評をいただき、全体として良かったのではないかと安堵しているところです。しかし、工夫改善の要望もありましたし、まだ2回目という若いコンテストですので、来年以降も修正していきたい点はたくさんあります。此度は多くの団体、企業の方々にご支援をいただきました。皆様本当に有難うございました。



12月9日（水）日越共同イニシアティブ第五フェーズ最終評価会合

[ホーム](#) > [JBAV活動 & CSR活動](#) > [年度ごと活動報告](#) > [JBAV活動報告 2014](#) >

12月9日（水）日越共同イニシアティブ第五フェーズ最終評価会合

12月9日（水）日越共同イニシアティブ第五フェーズ最終評価会合

2014年12月9日（火）にInternational Convention Centerにて日越共同イニシアティブ第五フェーズ最終評価会合が開催されました。ベトナム側は計画投資省ヴィン大臣、各省庁、日本側は深田大使の共同議長のもとに、各Working Teamリーダーが出席しました。13のWT(Working Team)における合計104項目の評価に、日越双方が合意しました。また、フェーズ6の実施（開始時期は未定）、ならびにイニシアティブで解決できない課題を議論するよりハイレベルな仕組みの構築に合意しました。



2014年12月

5月28日（土） ジョブフェア 2016（後援）

[ホーム](#) > [JBAV活動 & CSR活動](#) > [年度ごと活動報告](#) > [JBAV活動報告 2016](#) > 5月28日（土） ジョブフェア 2016（後援）

5月28日（土） ジョブフェア 2016（後援） 2016年 5月

5月28日（土）、日越両国政府の合意で設立された教育機関である「ベトナム日本人材協力センター（VJCC）ハノイ」で毎年恒例の「ジョブフェア2016」が開催されました。

同フェアは、日系企業と日系企業に就職したい学生を繋ぐイベントで、本年度で8回目となります。今回は13社の日系企業、約350名の学生が参加し、大盛況でした。当日のオープニングセレモニーでは、JBAV柳井会長、JBAV川田副会長（ジェットロハノイ事務所所長）がご出席の中、貿易大学のトゥアン学長及び在ベトナム日本大使館の当間書記官のご挨拶があり、続いて毎年恒例の「日本企業が求める人材とは？」の講演をJBAV小林人材育成委員長（リコーイメージングプロダクツベトナム社長）が行いました。

オープニングセレモニーの後は、会場に設けられた企業のブースを学生が訪れ、企業説明や質疑応答などを行う対話の時間に移り、参加した学生が各々興味のある企業のブースを訪れ、大変熱心に企業との対話をする姿が見られました。

昨今は当地に進出する日系企業の業種も多様になってきており、日系企業への就職に積極的で優秀な学生への採用ニーズが高まっておりますので、このようなイベントを通じてより多くの学生が日系企業への興味を深めていただくことを強く願う次第です。

（人材育成委員会委員長 リコーイメージングプロダクツ（ベトナム））



5月28日（日） 民進党訪問団と意見交換を行いました。

[ホーム](#) > [JBAV活動 & CSR活動](#) > [年度ごと活動報告](#) > [JBAV活動報告 2017](#) >

5月28日（日） 民進党訪問団と意見交換を行いました。

5月28日（日） 民進党訪問団と意見交換を行いました。

5月28日（日）ベトナム訪問中の民進党の枝野衆議員議員、青柳衆議員議員、石橋参議院議員と梅田大使、JBAV幹部が日本大使公邸にて意見交換を行いました。

辛島会長から最近のJBAVの活動・取り組みについて説明をおこなった他、同席の幹部からは日系企業が抱える雇用の課題や、その解決に向けJBAVがベトナム政府に対し改善を求める意見・要望活動について報告がなされました。

（JBAV事務局）



2017年 5月

「裾野産業フォーラム」のご案内

ジェトロ・ハノイは、Reed Tradex 社、ベトナム貿易促進局 (VETRADE) と、ベトナムの裾野産業の現状や今後の課題などに関するフォーラムを下記のとおり開催します。本セミナーが、皆様の企業経営の一助となれば幸いです。なお、今回の裾野産業フォーラムでは、2015年9月10日から12日に開催を予定している「日越裾野産業展示会」のご案内も予定しております。

【主催】Reed Tradex

【共催】ジェトロ・ハノイ、VIETRADE

【日時】2015年5月20日(水) 14:00~16:10(受付:13:30~)

【場所】Pullman Hotel (Horison Hotel) Hanoi, Vietnam

【参加費】無料

【言語】日越後逐次通訳

【講演プログラム】(予定)

13:30~14:00 受付

14:00~14:15 主催者、共催者挨拶

14:15~16:10 ベトナム裾野産業の現状や今後の課題に関する講演

商工省傘下裾野産業開発センター 所長 Dr. Truong Chi Binh

JICA シニアボランティア 青柳 豊氏

リコーイメージングプロダクツ(ベトナム) 社長 小林 裕一氏

16:10 閉会



2015年 5月

平成25年度外務省講師派遣事業セミナー

ビジネスにおける異文化コミュニケーション —天津伊勢丹の経験から

本セミナーでは、稲葉利彦・株式会社セレスポ代表取締役社長(元・天津伊勢丹社長)を講師にお迎えし、天津伊勢丹でのご経験を中心に、文化を乗り越えるマネジメント術についてお話いただきます。稲葉氏の基調講演の後には、当地日本企業およびベトナム企業のパネリストを交えて、様々な視点からビジネスにおける異文化コミュニケーションについて語っていただきます。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

2014年3月20日(木) 14:00-17:00

於・ベトナム商工会議所ホール
(7th Floor, 09 Dao Duy Anh, Hanoi)

入場無料

【プログラム】

13:30-14:00 受付

14:00-14:20 式辞

ベトナム商工会議所

在ベトナム日本国大使館

14:20-15:30 基調講演

稲葉利彦 株式会社セレスポ代表取締役社長

15:30-15:45 休憩

15:45-17:00 パネルディスカッション、質疑応答

稲葉利彦 株式会社セレスポ代表取締役社長

小林裕一 Pentax Ricoh Imaging Products (Vietnam) 社長

ベトナム企業経営者(調整中)

(司会)高田充人 JICA投資環境整備アドバイザー

【主催】在ベトナム日本国大使館

【共催】ベトナム商工会議所

2014年 3月

「訪ベトナム・カンボジア経済ミッション」概要報告

2016年10月

日本メコン地域経済委員会

セッション2では「人材育成」をテーマに、ベトナム日本商工会の小林 裕一 人材育成委員長、ならびにミッション団員のイトーソリューション&コンサルティング㈱代表取締役 伊藤 正氏からそれぞれ、日本企業から見たベトナムにおける産業人材育成の課題についてスピーチが行われた。



人材育成についての要望を伝えるベトナム日本商工会・小林人材育成委員長(左)、イトーソリューション&コンサルティング㈱代表取締役伊藤氏(右)

小林人材育成委員長は、「企業と人材のマッチングに向けて、日本の技能検定のような仕組みを活用し、学生が自発的に能力を伸ばせるよう、ご支援いただきたい」と述べた。伊藤氏は、ホーチミンに進出した日系中小企業の事例をもとに、「中小企業の海外展開では即戦力人材のニーズが高い。現地人材は日本語ができて、営業や貿易などの実務能力が不十分であることが多く、大学でビジネススキルを磨けるような教育を期待する」と述べた。

2016年10月